

令和4年度 家庭教育支援プログラム指導者研修⑤ 実施報告

実施日：令和4年7月27日（水）

5月から始まった「家庭教育支援プログラム指導者研修」が、全5回の日程を終了しました。最終回は、3回目となるファシリテーター体験と、宇都宮共和大学・石本准教授による講話を行いました。

○ グループワーク

「地域元気プログラムファシリテーター演習③」後半

1回目で親学習プログラムを、2回目で思春期版家庭教育支援プログラムをファシリテートした経験を踏まえ、今回は地域元気プログラムのファシリテーターを体験しました。

グループごとにプログラムの進め方を確認した後、いよいよ本研修最後のファシリテーター体験が始まりました。対象となる参加者の属性が1、2回目のプログラムより幅広いことに対応し、参加者への言葉かけを工夫しているグループや、他のグループの取組から学んだことも生かして、メンバー同士がより有機的に連携してプログラムを進行しようと工夫しているグループなど、どのグループの様子からも、これまでの経験を十分に生かしていることが伺えました。



○ 講話

「地域で家庭教育支援を進めるために」

宇都宮共和大学 子ども生活学部 准教授 石本 真紀 氏

全5回の研修の最後に、受講者が今後各地域での家庭教育支援に携わっていかうとする際のポイントや、現在求められている支援の在り方等を学ぶための講話を行いました。

石本氏の講話は、御自身の研究だけでなく、地域での家庭教育支援に関わる活動経験にも基づく内容でした。

現在の家庭を取り巻く問題点や、実際に行われている支援活動について整理した上で、支援者には、支援を必要としている方々の持つ力を信じながら、細く長く寄り添っていく姿勢が求められること、また、これまで続いてきた地域での支援をつないでいくことや、地域で子育て支援をするという同じ目的を持つ人々のつながりを充実させることの大切さなどが語られました。5日間の研修を積み重ね、家庭教育支援への意識を高めた受講者にとって、示唆に富むものとなりました。



○ 受講者の声（アンケートから）

- ・ 実際の（プログラムの）活用場面では、今回の演習の「参加者役」とは経験や意識が違う方が参加するので、事前の準備の重要度が更に高まると思いました。
- ・ 演習を重ねることで、テーマに基づいて、参加者が安心して自分の思いを伝え合い、考えを深めることができるよう、ファシリテーターとしてどう働きかけると良いか、少しずつ分かってきました。
- ・ 研修をとおして、地域での人間関係を築いていくことの難しさと、地域の人々とのかかわりが必要な子どもたちや、家庭が多いことを知りました。
- ・ 人とのかかわりが少ない状況が続いていますが、それでも周りの人々を思い、幸せを願う方が多くいてくれること、自分もその方たちの仲間であられることを幸せに感じました。
- ・ 家庭教育支援は経験の少ない自分にはまだ難しいと思いますが、機会があれば関連することについてもう少し学習してみたいです。
- ・ ファシリテーターの役割をより深く理解し、それらを実践できる力をさらに高められるよう、工夫が必要だと思いました。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp